

2024年11月7日
建設労務安全研究会

全国労研交流会議懇親会の挨拶

ただいまご紹介いただきました、東京労研の理事長の細谷でございます。よろしくお願いいたします。

公務御多忙中、日頃よりお世話になっております厚生労働省 井内安全衛生部長、国土交通省 時苗（まかなえ）大臣官房審議官、はじめ多くの来賓の方々にご臨席をいただき、全国労研交流会議懇親会が、かくも盛大に開催できたことは誠に嬉しい次第でございます。心よりお礼申し上げます。

さて、東京労研は、昭和二十一年十月に本研究会の前身である労務懇談会が発足してから今年で七十八周年を迎えます。現在の会員は、総合建設業四十社、二団体（日本埋立浚渫協会、日本建設躯体工事業団体連合会）及び建設業労働災害防止協会、全国建設業協会、日本建設業連合会であります。

今年度、化学部質管理に係る専門家検討会、建設工事における重量物の支持を伴う仮設物の安全対策に関する研究会、高年齢就労者の労働災害防止対策のあり方に関する検討委員会等、新たな施策への検討会等に当会の理事が委員やメンバーとして参画し、関係機関へ積極的に提言を行うとともに、建設業界の発展に寄与する活動に取り組んでおり、当会は、建設業界において一定の役割を果たしつつあると認識しております。

今後も、関係諸機関との連携を図り、建設業界の発展に寄与することを目的に活動に取り組み、迅速な各種の情報収集と提供、労務管理及び労働衛生管理に関する諸問題の調査・対応策の研究、また、外部講師を招いての講演会やセミナー、行政・関係団体との意見交換会等を計画的に実施し、会員相互の情報の共有化、管理水準のレベルアップが図れるよう推進していきます。

さて、近年、地震やゲリラ豪雨といった自然災害が毎年のように発生し、多くの被害をもたらしており、被災した地域の迅速な復旧・復興工事、インフラ整備、メンテナンス等、社会環境が変化してきていますが、働く方々の安全と健康を確保するために労働災害防止対策を推進し、労働災害の減少を図ることを第一に、不断の努力を続けることには変化はありません。

最近いろいろな場面で私が話していることをご紹介いたします。

「自主対応」の安全という言葉です。

法律や規則を超えて、より高いレベルの対応を自発的に行い、当事者意識を持つことです。そして、安全レベルは、その時代ごとに価値観や社会通念、生活環境などとともに変化します。安全は、何もせず保って放っておくと、どんどん劣化していきます。なぜなら、体は楽を覚え、意識はマンネリ化し記憶は風化していくからです。安全は、まさに「不断の努力によって築

き上げられる」ものです。私の個人的考えかもしれませんが、せんが、現場の安全は放っておくと劣化します。

安全は、たまたまある時点での「状態」に過ぎず、絶えず変化していきます。

過去の苦い教訓からしっかりと築き上げたはずの安全も、何もしないで放っておくと、どんどん劣化していきます。なぜなら、体は楽を覚え、意識はマンネリ化し、記憶は風化していくものだからです。安全はまさに、「不断の努力によって築き上げられる」ものだと言えます。

建設業において、働き方改革、技能労働者不足、資材高騰、地球環境問題等の厳しい社会環境の中にあつて、あらゆる分野において業務の効率化を図る他、機械化、ロボット化さらにはデジタル技術の活用により生産性の向上を図られています。

しかしながら、生産性の低下・スケジュールの遅れ等があっても、安全を最重視する判断をすることを明

確に示すことが重要であると思います。安全は我々の仕事の最優先事項です。安全管理の更なる合理化・効率化は、安全管理の本質、目的、ルールの成り立ち等を理解したうえで進めることが重要だと思っています。

社会が求める安全レベルは時代とともに変化します。さらに、世の中が期待する安全レベルは、その時代ごとの価値観や社会通念、生活環境等とともに変化していきます。しかも、それはほぼ間違いなく上がる方向にのみ変化し、一度上がった期待レベルは下がってはくれません。試験で80点取れば合格圏だった学校に、90点取らないと合格できなくなる、というようなものです。

科学技術の進歩や生活環境の向上によって社会全体のリスクが少なくなる中で、社会が求める安全レベルが高くなってきており、前例にとられることなく、自らの業務を見つめなおし、新しい安全を創っていく

必要があります。

行政機関及び関係団体等からの情報収集と会員への提供等により、会員の教育、情報、管理水準のレベルアップが図れるよう推進してきました。

今後も、ここにお集まりの会員各社が関係団体の皆様の力をお借りし、行政・発注者との連携の下、一体となって、安全衛生理念にある「働く者一人ひとりの安全の確保と健康の増進」「快適な職場環境の確立」を図る活動をこれからも行っていきたいと考えます。

最後に

本日までご出席の皆様のご発展とご健勝並びに各社の無事故・無災害を祈念申し上げ、開式の挨拶とさせていただきます。